

*** 東京天文台岡山天体物理観測所開所の記念品発見**

アーカイブ室新聞 (2009年6月19日 第200号) で東京天文台岡山天体物理観測所開所の記念切手を紹介した。東京天文台岡山天体物理観測所は1960年10月19日に開所式を挙
行したその際、記念切手(写真2)が発行されたが、その記念切手とほぼ同じ図柄の陶器の
皿の壁かけが記念品として配られた。筆者が岡山天体物理観測所に入ったのは1961年3月
であったから、その記念品をもらったはずはないが、筆者の家にもその記念品があること
を発見した。今となつてはその入手経緯が思い出せない。写真1がその壁かけである。色
合いからすると備前焼のように思えるが筆者には陶器の鑑定はできない。もっとも筆者が
郷里の岡山にいたころは備前焼とは言わず「伊部(いんべ)焼き」と言っていたと記憶し
ている。



写真1 岡山天体物理観測所開所の記念品

今年(2010年)は岡山天体物理観測所開所から50周年を迎える。開所当時は世界7番目、
当然、東洋一、日本一の大望遠鏡であった。山陽本線鴨方駅には大きな東洋一の望遠鏡と
書かれた看板が立ち、188cm望遠鏡ドームを模った「天文もなか」とか、「てんもん饅頭」

なども売られた。

写真 2 の記念切手のデザインは、観測所北西の竹林寺山から四国の山々、瀬戸内海を背にした観測所の景色を描いたものだが、記念品の方は、この景色を描いた絵を元にしてい
ると思う。確か、観測所のレジストレーションを行っていた部屋にかかっていたはずだ。



写真 2 岡山天体物理観測所開所記念切手

記念品の裏側の写真が写真 3 である。そこには「岡山天体物理観測所開所記念」(写真 4)、
「東京大学東京天文台 1960. 10. 19」と、作者の印の彫りこみ (写真 5) がある。



写真 3 記念品の裏側



写真4 「岡山天体物理観測所開始記念」の彫りこみ



写真5 「東京大学東京天文台 1960. 10. 19」と作者の印の彫りこみ

東京天文台岡山天体物理観測所開所時代の責任者大沢清輝先生、現地で頑張った石田五郎、清水実氏など多くの人が旅立ち、詳細を聞くすべがなくなった。開所当時に観測所に就職した仲間は健在なので、この記念品に関する話を聞いてみたいと思っている。